

きずな



就任のあいさつ

消防団長 田辺 隆



本年三月十一日に発生した東日本大震災は、未曾有の大災害で今も不自由な避難生活を送っている方々がたくさんおられます。そのような中、消防団員は自ら被災しながらも消防団員としての使命感のもと、地域住民の避難誘導、捜索・救助、消火活動など広範囲にわたり活動を続けてきたが、水門閉鎖や避難誘導の際、津波に巻き込まれ多数の消防団員が殉職され痛恨極まりなく筆舌に尽くしがたい想いがあります。

このような中、岡田前団長の勇退に伴い、四月一日より消防団長に就任しましたが、これまで井上和浩副団長と共に、次のことを掲げて活動を行ってきました。私たち消防団は常備消防と同様の消防機関であり、その構成員である消防団員は権限と責任を有する非常勤特別職の地方公務員であります。私たちは本業を持ちながら、「自らの地域は自ら守る」と言つ崇高な郷土愛護の消防精神に基づき飯豊町の安心安全の確保のために消防防災活動を行っております。

消防団には三つの特性があります。「地域密着性」、「要員動員力」、「即時対応力」以上三つの特性は消防団員として伸ばすことが重要なことだと考えます。その中でも地域密着性を高めるには、団員が防災活動だけに限らず郷土愛護の精神で各地域の運動行事、文化行事などに積極的に参加し、地域住民との交流の中で信頼関係を深めていきたいと思えます。それが防災に強いまちづくりにつながると考えます。また、団員においては災害時に備え安全管理面で服装・装備など貸与品の充実を図るべきだと思います。

これからも町民の安心安全を守るために飯豊町消防団が丸となって活動していきたいと思えます。

わが町消防団

分団活動紹介

本部分団

分団長：高橋弘之
分団員数：35名



本部分団は3班編成で構成されています。1班は火災現場での現場本部設営や各消防団行事の準備などに従事。2班は、みなさんご存知の音楽隊です。演習での分列行進曲などの演奏や、消防団活動の啓発を目的にいろいろなイベントでの演奏会も行っています。本年は、東日本大震災により、飯豊少年自然の家に避難されてきた方々への慰問演奏会も行ってきました。3班は、女性隊員です。高齢者宅へ訪問しての防火指導や応急手当普及員の資格を取得しての応急手当普及活動にも参加しています。このように本部分団は、火災現場で消火活動に当たる他の分団とは活動内容が違いますが、消防団活動の裏方として日々研鑽を積んでいます。

第二分団

担当地区：黒沢、椿
分団長：渡部信義
副分団長：石原朝博
分団員数：76名



分団内訓練としての放水中継訓練を分団長以下約30名と積載車1台、軽積載2台の車両が参加して実施しました。

訓練内容は、中継を行う上での圧力計算や注意事項等をポンプを使用しながら説明し、その後、車両3台を元ポンプ、中継ポンプ及び先ポンプにそれぞれ振り分けて、交代しながら実際に水出しを行いました。今回の訓練を今後の消防活動に生かしていきたいと思えます。

また、今年の冬は雪が特に多く、1月には3回の消防施設の除雪作業を行いました。来年の冬は雪が少ないことを祈るばかりです。その他にも、「めざみの里祭り」や「復活版！椿劇場」などのイベントの警備も行っています。火災予防活動に更に力を入れ、来年は、今年以上の活動をし、地域住民の生活に役立てるようがんばってまいりますので、よろしくお願いいたします。

第四分団

担当地区：小白川、手ノ子、高峰
分団長：横山清彦
副分団長：小関貴典
分団員数：109名



町消防団員414名中、4分団は109名と最も大きな分団です。担当地区は手ノ子、小白川、高峰の、旧豊川地区です。大所帯の分団ですが、結束力は、町消防団の中でも一番だと自負しております。4分団では、辞令交付式後の新入団員歓迎会から始まり、大演習、操法大会等の慰労会、「頭渡し」という頭番引継ぎの儀式、幹部研修など通常活動の他にさまざまな行事を分団全体で行います。それも結束力増強の要因だと思っています。

町のポンプ操法大会では常に上位、西置賜支部大会でも数多くの優勝を成し遂げているところです。成績上位を目指し、来年の雪解けを待って、班全員で一丸となった練習も始まる予定です。団員は仕事も家庭も少なからず犠牲にして、一生懸命に練習を行い、練習を通して全員がさらにまとまることとなります。

「無火災・無災害」を願い、住民の方々と連携しながら、災害の無い地域づくりの一端を担うべく、予防消防、訓練に励んでまいります。皆様方のさらなる御指導の程、よろしくお願いいたします。

第一分団

担当地区：中、萩生
分団長：後藤恵一郎
副分団長：山口利行
分団員数：94名



第1分団は中、萩生地区で構成され94名の団員が所属しています。

団員は、消火活動だけでなく地域防災の中核として、地域に密接したきめ細かな火災予防活動として、毎月1日と15日に資器材の点検、巡回活動を行っています。

新たな活動として、自主防災組織と連携しての住民の避難誘導広報訓練も行っています。訓練では、応急手当講習や山形県の地震体験車で震度7の揺れを体験するなど、いつ来るかわからない災害に備え、地域住民の方々と共に安全に安心して暮らせる地域づくりを、訓練を通して啓蒙しました。

今後とも、団員一丸となり地域から頼りになり、信頼される消防団として活動していきます。

第三分団

担当地区：添川、松原
分団長：横澤祐次
副分団長：二瓶広和
分団員数：57名



第3分団は、添川・松原地区を担当しています。分団長以下57名体制で、自動車ポンプ1台、積載車2台、軽積載車3台での、消防活動を行っております。

三分団での活動として、新入団員の各個訓練指導、秋季演習(自動車ポンプの操作要領及び救助資機材の使用要領)を行いました。各部、班では、毎月の巡回啓蒙活動(4回/月)、春季・秋季火災予防運動中の巡回啓蒙活動、各防火水槽のゴミ上げ、クマ出没による住民への注意・警戒活動、冬期の消防水利の見回り、消防操法訓練、各祭礼の警備、ふるさと温泉祭りチビ子広場の給水支援、ひめさゆり荘の避難訓練支援、自主防災会との合同訓練など多種多様となっています。特にゴミ上げに関しては、山間部からの給水となっている所が多く、毎年行っても貯水槽内に多量の土砂が堆積しており、排出作業に団員も大変苦労しているところです。

これからも地域住民が安心して生活出来るように、防災に携わる機関として活動を行っていききたいと思います。

第五分団

担当地区：中津川
分団長：丸山 茂
副分団長：伊藤幸雄
分団員数：42名



第5分団はこれまでに次の2つの目標達成を掲げて活動してきたところです。

『無火災で終わること』平成20年、21年と住宅火災、林野火災が2年続けて発生してしまいました。予防消防に努め、第5分団地内の無火災を願っているところです。

『第5分団の再編』2年続いた火災において、団員の集合が遅かったのが、再編を検討する理由である。団員の仕事の多様化により、地区外に勤務する方が多く、昼間、地元に残っている人が少ないためである。問題を解決するために分団内の再編計画を進めてきましたが、団員数が少ないこともあり、思うように進みませんでした。飯豊分署及び町住民税務課と協議の結果、平成23年度より消防団員のOBで構成する「機能別消防団」を組織化して、昼間の団員確保ができたところです。団員及び機能別団員と共に、水利確認や中継放水の訓練活動を行っていますが、分団としては引き続き再編を考えているところです。